

# ワーク・ライフ・バランスの取り組み

医療法人社団 脳健会 仙台東脳神経外科病院

**取り組み：** 2013年宮城県看護協会から「看護職の働き続けられる職場づくり」を目標にWLBの動機 ワークショップ参加の募集があった。前年度の離職率が30%に達したのを契機に、看護師の定着率を上げるヒントが欲しくて、藁をもつかむ思いでワークショップに参加した。

**施設概要：** 病床数93床の脳神経外科専門病院。入院基本料10対1の急性期病院。24時間救急受け入れ。平均ベッド稼働率 83 %、平均在院日数 18 日、  
**看護部概要：** 看護師数 67名、看護補助者 19名  
夜勤体制 2交代、看護補助体制25対1、夜間50対1急性期看護補助体制加算  
**ミッション：** ・地域住民および職員の幸せ・健康・生活を尊重する組織づくりを進める。  
・地域社会から信頼・支持され、安心して受けられる医療を提供し発展する。  
**ビジョン：** ・職員が生き活きと働き続けられる職場づくり。  
・脳・神経系のエキスパートをめざす。

## 取り組みが推進できたのは、

### 1. 「看護職のWLBインデックス調査」(職員調査)で、看護職が本音を出せた(参加率100%)。

- 特徴：**
- ①職員によるWLB制度の利用、WLB実現の状況の評価するための指標が含まれており、職員の意識・行動の観点からWLBの実現度を評価する指標。
  - ②現状を客観的に把握し、施設に適した取り組みを行うための調査。
  - ③定量的アプローチ(数値データ:客観的)の結果から、施設や職員の「本当の姿」が見える。

### 2. 病院管理者の理解があった。

- ①病院・組織としての目標・方針を職員に伝え、職員を大事にしてくれていることが感じられた。
- ②職員が生き活きと働き続けられるように、ハード面を整備してくれた。
- ③職員のスキルアップと人材育成のための制度を導入してくれた。
- ④看護職の負担軽減が良い看護・医療につながる認識で、人材確保に努力してくれた。

## インテックス調査から改善された主なこと

### 夜勤の負担(仮眠なかった)↓

- ・仮眠60分~70分とれる。
- ・仮眠室設置し、リニューアルされた。
- ・TENA導入で夜間のおむつ交換4回→1回になる。

### 制度が分からない(6~7割)

- ・就業規則・「WLBと労働法規の説明会
- ・介護休暇が気兼ねなくとれるようになった。
- ・メモリアル休暇の取得率アップ。

### 研修支援が少なかった

- ・研修費助成規定・旅費規定ができ、外部研修参加・学会発表が盛んになった。

### 教育・指導が不十分

- ・ラダー研修の充実
- ・医師の講義
- ・各委員会研修が盛ん

### 始業前残業があった

- ・始業前は情報収集のみ
- ・口頭での申し送り廃止
- ・ウォーキングカンファレンスの充実

### 職員調査で%が2.5倍上がった項目 (職員の反響)

- ・看護職員を大切にしている組織である。
- ・今の勤務先にできるだけ長く勤めたい。
- ・組織は、能力開発のための研修の実施、または、その参加を支援してくれる。

WLB取り組み4年目で、看護師離職率が**5%に下がった。**

今後も組織一体となって、「全職員が働き続けられる職場づくり」を目指していきます。